

子どもの家事労働についての考察 —小学校家庭科の教科書の記述から—

松田 典子*

A Discussion of Children's Chores At Home: Based on Descriptions in Elementary School Home Economics Textbooks

Noriko MATSUDA

要旨 家事労働は、正確にその範囲をとらえることが難しい側面がある。また一方、家事の社会化・外部化などが言われているように、家庭を取り巻く社会の変化によりその内容や方法が変わってきている。そこで本稿では、小学校家庭科の教科書を取り上げ、その分析を行い、まずこれまでの教科書における家の仕事の規定箇所を整理し、次に家庭の仕事に関する記述箇所（家の仕事分担の例やイラスト等）を取り上げ、分析することで、社会の変化の中でどのような家の仕事が行われているのかを検討した。

その結果、(1) 労働と生活活動の区分、(2) 家事労働の要素分解、(3) 職業労働と家事労働の区分、(4)、人に関する仕事、(5) 職業労働と家事労働を合わせた生活全体におけるキャリア教育、が今後検討すべきこととして考えられる。

キーワード：家事労働 家の仕事 小学校家庭科 教科書分析

1. はじめに

家事の社会化・外部化などの家庭とそれを取り巻く環境の変化により、家事の内容や家事時間が変わってきている。一般的には家事は軽減していると考えられるが、実態としてそれほど負担は軽くなっていない側面もある。例えば、科学技術の社会史を専門とする R・S・コーワンは、テクノロジーがもたらす家事労働の変化について、炊事・掃除・洗濯などの家事労働は、家事テクノロジーの変化によって軽減されるどころか、家事労働を専ら担う者（主に母親）にとってはますます増えていることを歴史的に考察している（R・S・コーワン（2010））。

また家事労働の変化が指摘される一方で、家事労働とは何かといった定義は、これまでに家政学、社会学などの分野で試みられているが、どの

範囲までを家事労働とするのか、正確に規定することは困難である。多くの文献では、家事労働とは「家庭生活の場における、家族員の労働力の再生産である」といった定義が一般的にみられる（伊藤（1981）など）。この家事に関する定義は、「家庭生活」という場所の側面と「労働力の再生産」といった機能の側面からとらえられている。しかし、この定義では、家庭生活という場以外で行われることは家事ではないのかといった疑問や高齢者や病人の世話といった再生産に寄与しないことは家事ではないのかといった疑問が残る。

家事の分類としては、天野（1978）によると、(1) 生活手段をととのえる労働（ハウスキーピングともいい、狭義の家事労働）、(2) 家庭内の人間を対象とする労働（サービス労働ともいい、育児、教育、介護など）、(3) 家政管理労働（ホームメイキングともいい、予算などの計画、家計簿などの記録、商品知識などの学習など）の3つに分ける考え方がある。しかし、この(1)～(3)の

*まつだ のりこ 文教大学教育学部学校教育課程家庭専修

いずれにおいても、最低限やらなければならない家事というのはどの範囲までいうのかをとらえるのは困難であり、特に(2)の人間に関する労働については、生活に関する家族同士の話し合い(例えば家計や子どもの教育についての相談など)でかかった時間も家事時間としてとらえるのかといったあいまいさが残る。さらに地域での活動(例えば町内の清掃など)などは家事の延長としてとらえてよいのかなど、家事とその他の活動との境界線を引くことは困難である。

直井(1989)は、このような家事労働の規定の難しさについて、家事の性質とは、①家族員によってなされるかぎり賃金を支払われない(無償労働)、②家事労働は労働内容によって規定されているというよりは、家族員の要求にそうことを行う労働であると考えられている、③(②のような理由から)家事は達成度があいまいな仕事である、④家事はきりのない仕事である(最小限度の家事がわからないのと同様、最大限度の家事もわからない)、⑤家事は生活のあらゆる局面にかかわる多様な仕事を含む(保育士、教師、調理人、皿洗い、デザイナー、修繕屋、クリーニング屋、看護師、庭師などといった多様な役割を務める)ことを挙げている。

以上のことから、家事労働は、正確にその範囲をとらえることが難しい側面があり、また一方、家事の社会化・外部化などが言われているように、家庭を取り巻く社会の変化により、確実にその内容や方法が変わってきている。

家庭科では、家庭生活の中の衣食住・消費生活などの仕事を「家の仕事」、「家事労働」として扱い、家庭生活を営む上で必要な生活技術を調理実習や被服実習など体験的活動を通して身につけ、それを児童・生徒自身の家庭での実践をすることを目指しているが、子どもの家事参加の実態はどうなのか。家事経験や生活体験などについての調査は、次のようなものがある。

生涯学習審議会(1999)の調査によると、生活体験が豊富な子どもほど、またお手伝いをする子

どもほど(例えば、「食器を揃えたり、片付けたりすること」、「新聞や郵便物をとってくること」など)、道徳観・正義感が充実していることを示している。また同様に、総務庁(1995)も生活体験について調査している。

家庭科教育学会(2002)「家庭生活についての全国調査の結果」では、全国の子どもの家事参加の状況を調べている。

子どもの家事実態についての調査は様々なものがあるが、多種多様な家事はどう捉えられるものなのか。

家庭科で学ぶ家事労働(家の仕事)について、教科書における家事労働の記述方法の変遷をみていき、家事労働とはどのように捉えられるものであるのかを検討していく。

2. 先行研究

高等学校家庭科については、佐藤(2012)が高校教科書の家事の記述を分析している。しかしながら、学校教育の中で家庭科が開始されるのは小学校第5学年からであり、小学校家庭科で、家事労働は「家の仕事」としてまず初めに扱われる。そこで、小学校家庭科で家事労働がどのように規定され、どのように記述されてきたのかを検討する。

また子どもの家事労働としては、小学校の発達段階においては、家族の一員として家の仕事を手伝うといった視点から、小学校の家事参加に影響する要因や授業実践を示したものがある(鳥羽ほか(2013)、鳥井ほか(2005))。そこで、子どもが行う家事労働としてどのようなものを想定しているのかを教科書からも改めてみておく必要がある。

そこで、本論文では主に教科書の記述より家事労働とは何かを検討していく。

3. 分析方法

分析対象とする教科書は、1960年代後半から現在までに発行されている小学校家庭科の教科書(2社)であり、家事(「家の仕事」)に関する内容を検討した(各社の教科書はA, B¹⁾とする)。

A社教科書は、1967年、73年、79年、85年、88年、91年、99年、01年、11年に発行されたものであり、B社教科書は、1970年、76年、79年、85年、88年、91年、95年、99年、01年、04年、11年に発行されたものである。

まず、教科書ではどのように家事労働(「家の仕事」)を説明しているのかをそれぞれの家事労働に関する記述を抜き出し、整理した。

次に、教科書の中で、家庭の仕事にはどのようなものがあり、また子どもはどのような家庭の仕事をしているのか、具体的に描かれている箇所(家の仕事分担の例やイラスト等)を取り上げ、それを時系列にとらえ社会の変化の中でどのような家の仕事を取り上げられているのかを検討した。

4. 分析結果

教科書ではどのように家事労働(「家の仕事」)を説明しているのか。家事労働に関する記述からみた結果、次のとおりであった(表1-1, 1-2)。

A社の67年、73年、79年とB社の70年の教科書では、家の仕事について、衣食住と合わせて「交際」という文言が入っている。「交際」という人にかかわる事柄についても家の仕事とされる。これは、学習指導要領においても58年、68年の学習指導要領では「家庭生活における交際」として、応接や訪問のしかたなどが項目として設けられているため、このような記述が加わっている(小学校家庭科の学習指導要領の変遷については、表3〈参考〉を参照)。

またA社91年、95年、99年の教科書では、「自分でしなければならない仕事、家族で分担する仕事、家族と協力する仕事」、「毎日する仕事やときどきする仕事など」といった家の仕事の負担の程度や性質については説明がされている。

次に、教科書の中で、家庭の仕事にはどのようなものがあり、また子どもはどのような家庭の仕事をしているのかが描かれている箇所(家の仕事分担の例やイラスト等)を取り上げ、さらに、

表1-1 「家庭の仕事」に関する記述(A社)

年	記述内容
67年	家庭での一日の生活を調べてみると、衣・食・住や交際に関する事など、いろいろなしごとがたくさんあります。これらのしごとを、家族がみんなまでほどよく分たんすれば、しごとがはやくできるだけでなく、家庭の生活も、いっそうあかるく、楽しくなります。
73年	…、家庭には、衣・食・住や交際に関する事など、いろいろなしごとがたくさんあります。…
79年	家庭には、家庭生活に必要な、衣・食・住や交際についての、いろいろな仕事がある。
85年	家庭には、生活に必要ないろいろな仕事がある。
88年	家族は、収入を得る仕事や、衣服・食物・住まいなどについてのいろいろな仕事をしている。
91年	家庭には多くの仕事があり、家族は、それぞれ生活に必要な収入を得る仕事や、着ること・食べること・住むことなどについての、いろいろな仕事をしています。
95年	家庭には、着ること、食べること、住むことなどについての、いろいろな仕事があります。これらは、生活に必要な収入を得る仕事と同じように、家族が健康で気持ちよく生活していくために大切な仕事です。
99年	家庭には、着ること、食べること、住むことなどについての、いろいろな仕事があります。これらの仕事は、生活に必要な収入を得る仕事と同じように、家族の生活を支える大切な仕事です。
01年	家庭には、着ること、食べること、住むことなどについての、いろいろな仕事があります。これらの仕事は、生活に必要な収入を得る仕事と同じように、家族が健康で気持ちよく生活していくために大切な仕事です。
11年	これまでに、食べたり、来たり、住んだりすることにかかわる仕事は、少しずつできるようになってきました。家族の仕事は、家族一人ひとりが健康で気持ちのよい生活をするために必要なものです。

表1-2 「家庭の仕事」に関する記述（B社）

年	記述内容
70年	家庭のしごとには、身なり、食事、すまいを整えるしごと、交際、など、いろいろある。
76年	家庭には、身なり、食事、すまいなどをととのえるしごとのほかにも、こまかいしごとがたくさんある。これらはどれも、家庭生活をしていくうえで、欠かすことができないしごとである。
79年	わたしたちの家庭には、家族が安心して生活していくために欠かせない仕事、たくさんあります。家庭の仕事は、生活をするために必要な収入をえる仕事と同じように、たいせつなものである。
85年	家庭には、毎日必ずしなければならない仕事、ときどきすればよい仕事、また、時間のかかる大変な仕事など、いろいろな仕事がある。これらの仕事は、生活に必要な収入をえる仕事と同じように、家族の生活をささえている。
88年	家庭には、毎日必ずしなければならない仕事、ときどきすればよい仕事、また、時間のかかる大変な仕事など、いろいろな仕事がある。これらの仕事は、生活に必要な収入をえる仕事と同じように、家族の生活をささえている。
91年	家庭には、家族が健康で気持ちよくくらししていくために、いろいろな仕事がある。これらの仕事は、生活に必要な収入を得る仕事と同じように、大切な役わりをはたしている。 家庭の仕事には、毎日必ずしなければならない仕事、ときどきすればよい仕事、また、時間のかかる大変な仕事など、いろいろな仕事がある。
95年	家庭には、着ること、食べること、住むことなどにかかわる、いろいろな仕事があります。これらの仕事は、生活に必要な収入を得る仕事と同じように、家族の生活を支えています。 家庭の仕事には、自分でしなければならない仕事、家族で分たんする仕事、家族と協力してする仕事があります。また、毎日しなければならない仕事やときどきすればよい仕事などがあります。
99年	家庭には、食べること、着ること、住むことなどにかかわる、いろいろな仕事があります。これらの仕事は、生活に必要な収入を得る仕事と同じように、家族の生活を支えています。 家庭の仕事には、自分でしなければならない仕事、家族で分たんする仕事、家族と協力してする仕事があります。また、毎日する仕事やときどきする仕事などがあります。
01年	家庭の仕事には、家族のみんが元気で、楽しく、安全に生活するために必要な仕事と、食べること、着ること、住むことにかかわる仕事があります。
04年	わたしたちは、だれもが楽しくいきいきと生活したいと願っています。そのためには、家族が互いに協力し、助け合うことが必要です。… 家族のメンバーやくらし方は、それぞれの家族によって異なりますが、どの家庭にも夢や願いがあります。家庭の仕事は、それらを実現するために、とても大切です。
11年	家庭では、家族の生活を支えるために、さまざまな仕事が行われています。家庭の仕事には、分担して行うものや協力するもの、毎日必要なものやときどきするものなどがあります。仕事の種類ややり方は、家族の年齢、人数や暮らし方などによって異なりますが、どの仕事も、必要で大切なものです。

食・衣・住・その他などの項目別に整理したものが、表2-1、2-2である。表中では、家族の仕事として取り上げられているものを○、自分の仕事として例で取り上げられていたものを◎として区別した。また仕事の名称が異なっているものは、その名称を表中に記載した。食・衣・住などの分類項目での変化は次の通りである。

食に関する項目では、「朝食のしたく」、「夕食のしたく」（これらを合わせて「食事のしたく」と記載している年もある）、「配膳」、「食事のあとかたづけ」といったことでほぼ全ての年で取り上げられている。特に「食事のあとかたづけ」について自分がやる仕事としての例示が多くされていたのが、最近では「食事のしたく」についても、家庭科で学んだことを生かせるようにするため

か、家族と一緒に料理をする様子などをイラスト等で表わされるようになってきている。

衣に関する項目では、「せんたく」、「せんたく干し」、「衣類の整理（せんたく物をたたむ）」、「アイロンかけ」、「さいほう」、「くつみがき」などが家の仕事の例として挙がっている。「せんたく」、「せんたく干し」については、はじめは「せんたく」のみの記載やイラストが多かったのが、「せんたく干し」という項目が新たに加わっている。これは「せんたく」が洗濯することから、洗濯物を干すという過程までの作業が細分化してとらえられたためである。また「アイロン」や「さいほう」は記述例はしばらくみられなかったが、最近ではイラストによって表記されるようになってきている。

表 2-1 家族の仕事の分担例の記述の変遷 (A 社)

分類	項目 No.	仕事	67年	73年	79年	85年	88年	91年	95年	99年	01年	11年
食	1	朝食のしたく	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○
	2	夕食のしたく	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
	3	配ぜん	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	4	食事の あとかたづけ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
衣	1	せんたく	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○
	2	せんたく干し	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○
	3	衣類の整理 (せんたく物を たたむ)	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	アイロンかけ	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○
	5	さいほう	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○
	6	くつみがき	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
住	1	雨戸のあげしめ	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×
	2	ふとんの あげおろし	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
	3	へやのそうじ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	庭のそうじ	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○
住 (その他)	5	ごみ出し	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	ふろたき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	身の回りの 整理・整とん	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	1	草花の手入れ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	生きものの世話	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	新聞・牛にゆう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1	買い物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
消費	2	家計ほつけ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1	客の応接	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家族・地域	2	病人の世話	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		備考										
		項目数	14	15	17	13	7	9	11	12	18	18
							わたしの 仕事の例のみ	イラストで 表現	イラストで 表現	イラストで 表現	イラスト で表現	イラストで 表現

表 2-2 家族の仕事の分担例の記述の変遷 (B社)

分類	項目 No.	仕事	70年	76年	79年	85年	88年	91年	95年	99年	01年	04年	11年
食	1	朝食のしたく									◎食事のしたく		
	2	夕食のしたく									◎家族に お茶を入れる	食事のしたく	
	3	配ぜん	ぜんたてと あとかたづけ	◎はいせんと あとかたづけ	◎はいせんと あとかたづけ	×	×	○	○	◎	◎	×	○
	4	食事の あとかたづけ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
衣	1	せんたく	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2	せんたく干し	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	○	○
	3	衣類の整理 (せん たく物をたたむ)	×	×	×	○	○	○	せんたく物 たたみ	せんたく物 たたみ	◎	◎	○
	4	アイロンかけ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
	5	さいほう	はりしごと	はりしごと	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	6	くつみがき	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	7	ふとん干し	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×
	8	はきもの整理	×	×	×	○	○	○	×	×	×	◎	◎
	9	上ばきあらい	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎
住	1	雨戸のあけしめ	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	2	ふとんの あけおろし	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	3	へやのそうじ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	4	庭のそうじ	○	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎
	5	ごみ出し	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	6	ふろたき	ふろたき	ふろ、便所の そうじ	ふろ、便所の そうじ	×	×	×	ふろあらい、 ふろの入れ	◎	◎	◎	◎
	7	身の回りの 整理・整頓	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	8	便所のそうじ	×	ふろ、便所の そうじ	ふろ、便所の そうじ	○	○	○	○	○	○	×	×
	9	戸締り	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎
住 (その他)	1	草花の手入れ	○	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2	生きもののせわ	犬と小鳥のせわ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	3	新聞・ 牛にゆう運び	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎
	4	機械などの修理	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
消費	1	買い物	買い物、おつかい	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2	家計はつけ	×	家計ほの記録	家計ほの記録	○	○	○	×	×	×	×	×
	1	客の応接	○	交際	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	2	子どものせわ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家族・地域	3	病人のせわ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	PTA や地域のこ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
		備考											
		項目数	16	17	16	19	19	18	17	11	18	13	15

子どもの家事労働についての考察

表3 〈参考〉小学校学習指導要領（家庭）の変遷

	時間数（5年，6年）	目標（全体）	各学年の目標	内容
58年	70時間，70時間	4 家庭生活の意義を理解させ，家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を養う。	（第5学年） （6） 家族の一員として自分の役割を知り，家庭のことに協力し，楽しい家庭生活を営もうとする態度を養う。 （第6学年） （6） 家庭の機能を理解し，家族と協力して，家庭生活の向上を図り，時間や労力，物資や金銭を合理的に使用する態度を養う。	（第5学年） D 家庭 （1） 家族の一員としての自分の役割を認識させて，責任を果たすようにさせる。 ア 家族はそれぞれどんな立場や役割をもっているかを調べる。 イ 自分の家庭における仕事の種類や分担の様子を調べる。 ウ 家族としての望ましいあり方を考える。 エ 家庭生活を維持向上するために，自分のとる態度について考える。 （2） 応接や訪問のしかたができるようにする。 ア 来訪者に対する適切な応待について考える。 イ 来客の取次，接待のしかたを実習する。 ウ 適切なあいさつや動作ができるように訪問のしかたを実習する。 （第6学年） D 家庭 （1） 合理的な生活について考えさせ，これを実践しようとする。 ア 家庭の機能について知る。 イ 家の仕事のしかたについて，能率的，計画的にすることをくふうする。 ウ 家族の生活時間のだいたいを調べて，規則正しく生活したり，余暇を利用して生活を楽しくしたりすることなどをくふうする。 エ 金銭の使い方について，じょうずな買物のしかたを考えたり，金銭の収支の記録のしかたを実習する。
68年 （71年施行）	70時間，70時間	日常生活に必要な衣食住などに関する知識，技能を習得させ，それを通して家庭生活の意義を理解させ，家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を養う。 このため， （1～3は省略） 4 家族の立場や役割を理解させ，家族の一員として家庭生活に協力しようとする態度を養う。	（第5学年） （4） 家族の一員として，自分の役割や家族の立場を理解して，仕事に協力し，楽しい家庭生活を営もうとする態度を養う。 （第6学年） （4） 家族と協力して家庭生活の向上につとめ，家庭生活についての理解をいっそう深めさせる。	（第5学年） D 家庭 （1） 家族の一員としての自分の役割を認識させて，責任を果たすようにさせる。 ア 家族はそれぞれどんな立場や役割をもっているかを調べ，自分の役割について考えること。 イ 家庭における仕事の種類や分担の様子を調べること。 ウ 家族の一員として家庭生活をよりよくするために，自分のとる態度について考えること。 （2） 家庭生活における交際について考え，応接や訪問のしかたができるようにする。 ア 来訪者に対する適切な応待ができること。 イ 来客の取り次ぎ，接待のしかたを実習すること。 ウ 適切なあいさつや動作ができるように訪問のしかたを実習すること。 （第6学年） D 家庭 （1） 家族と協力して家庭生活をよりよくすることをくふうし，これを実践するようにさせる。 ア 家庭の機能について考え，健康でうおいのある家庭生活にしようとする。 イ 家庭の仕事のしかたについて計画的，能率的にすることをくふうすること。 ウ 家族の生活時間を考え，時間の有効な使い方をくふうし，家庭生活を楽しもうとする。 エ 買い物のしかたを考えたり，金銭収支の記録のしかたを実習したりすること。
77年 （80年施行）	70時間，70時間	日常生活に必要な衣食住などに関する実践的な活動を通して，基礎的な知識と技能を習得させるとともに家庭生活についての理解を深め，家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる。	（第5学年） （3） 清掃，整理・整頓及び仕事に役立つ簡単な物の製作ができるようにするとともに，家庭における家族の仕事や役割を理解させ，協力して家庭生活を明るくしようとする態度を育てる。	（第5学年） C 住居と家族 （1） 自分の持ち物の整理・整頓，床，窓などの清掃，清掃用具の取扱い及びごみの処理が適切にでき，気持ちのよい住まい方を工夫することができるようにする。 （2） 家庭における家族の立場や役割を理解させ，自分の分担できる仕事の仕方を工夫し，家庭における仕事に協力することができるようにする。 （3） 家庭における仕事に役立つ簡単な物を，布などを用いて製作し，活用することができるようにする。

つづく

表3 (参考) 小学校学習指導要領(家庭)の変遷(つづき)

	時間数(5年, 6年)	目標(全体)	各学年の目標	内容
89年 (92年施行)	70時間, 70時間	衣食住などに関する実践的な活動を通して, 日常生活に必要な基礎的な知識と技能を習得させるとともに家庭生活についての理解を深め, 家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる.	(第5学年および第6学年) (3) 家庭における家族の生活を理解し, 快適な住まい方や計画的な生活を工夫することができるようになるとともに, 協力して家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる.	(第5学年) C 家族の生活と住居 (1) 家庭における家族の仕事や役割が分かり, 家族の一員として家庭の仕事に協力できるようにする. ア 家族の仕事や役割が分かり, 自分の立場や役割について考えること. イ 自分の分担する仕事を工夫してできること. (第6学年) C 家族の生活と住居 (1) 団らんや仕事など生活時間の有効な使い方を工夫し, 家庭生活に協力できるようにする. (2) 買物の仕方や金銭の使い方などが分かり, 計画的に生活する必要があることを理解できるようにする. ア 物の選び方や買い方を考えて, 適切に購入することができること. イ 金銭の使い方と記録の仕方を工夫すること.
98年 (02年施行)	60時間, 55時間	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して, 家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け, 家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる.	(第5学年及び第6学年) (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい, 家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる.	(第5学年及び第6学年) (1) 家庭生活に関心をもって, 家庭の仕事や家族との触れ合いができるようになる. ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かること. イ 自分の分担する仕事を工夫すること. ウ 生活時間の有効な使い方を考え, 家族に協力すること. エ 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること. (8) 近隣の人々との生活を考え, 自分の家庭生活について環境に配慮した工夫ができるようになる.
03年改正	60時間, 55時間	同	同	同
11年	60時間, 55時間	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して, 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに, 家庭生活を大切にしている心情をほぐし, 家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる.	(第5学年及び第6学年) (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい, 家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる.	(2) 家庭生活と仕事について, 次の事項を指導する. ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり, 自分の分担する仕事ができること.

住に関する項目では、「へやのそうじ」、「庭のそうじ」、「ごみ出し」、「ふろたき」などがある。「ふろたき」や「ふとんのあげおろし」などは自分でする仕事の例として描かれている。また「身の回りの整理・整とん」も自分でする仕事の例として挙げられているが、自分のためだけにすることが「家の仕事」としてとらえられるかどうか、その場合、例えば、自分の「歯を磨く」といった行動も家の仕事ととらえることになるため、自分のために行うことについては、生活活動として行うこととの区分が必要となる。

住(その他)の項目では「草花の手入れ」、「生

きものの世話」などがある。

また消費の項目では、「買い物」や「家計ほつけ」がある。「家計ほつけ」はA社73年, B社76~91年までの教科書に例として記載があるが、近年の教科書ではなくなっている。

家族・地域の項目では、「客の応接」、「病人の世話」がA, B社ともに記載があるが、他には「子どものせわ」、「PTAや地域のこと」がB社のみ分担例として記載されている。家族・地域の項目は、全体的にあまり記載が見られない。人に関する項目は、自覚しにくいものであり、また仕事の範囲も明確でないことからあまり記載がないもの

と思われる。

5. まとめ

小学校家庭科教科書の考察から、以下の点を明確にする必要があると考えられる。

1. 労働と生活活動の区分

近年の教科書では、家の仕事について、イラストで説明をする傾向にあるが、家の仕事について、生活活動との区分が必要である。小学校の発達段階では、例えば、顔を洗うなどの生活動作も、仕事ととらえられてしまう可能性がある。

2. 家事労働の要素分解

例えば、「せんたく（洗濯）」について60～80年頃までの教科書では、「せんたく（洗濯）」のみの記載だったが、90年以降に「せんたく干し（洗濯干し）」といった項目が加わっている。一言で洗濯と言っても、洗濯物を洗濯機に入れる、洗剤を入れる、取り出して干す、など、労働過程の要素を分解すると、簡単に定義できるものではないことがわかる。家事労働をどこまで要素分解して考えるのかを検討する必要がある。

3. 職業労働と家事労働の区分

80年代頃から2000年頃までの教科書で、小学校の家庭科においても「収入を得る仕事」として職業労働の記載があり、それに対し、家庭における衣食住に関する仕事としての家の仕事に記載されている。ここで同じ仕事として扱われていて、違いがわかりにくいものもある。家事労働と職業労働との違いについては、家事労働は、1) 不払い労働、2) 家庭という労働環境、3) 労働者が専門化されていない、といったことが挙げられるが、特に、1) の賃金がもらえるかどうかの違いが職業労働との大きな違いである。職業労働は「生活に必要な収入を得る仕事」として記載され、家事労働も職業労働と同様に生活になくはなら

ない仕事だと説明されていたが、現在の教科書では、A社、B社ともに職業労働の記述がなくなっている。

4. 人に関する仕事（家族・地域に関すること）

衣食住などの生活に関わる仕事については料理、洗濯などとして理解しやすいが、人に関わる病人の看護や介護、保育などは永続的なことではないこともあり、自覚しにくいものである。また身の回りのことを整える衣食住の家事とは異なり、人と関わること（例えば病人の看護や介護等）を単純に誰かがやらないといけない仕事だからしているのだととらえてよいかについても議論の余地があると思われる。

5. 職業労働と家事労働を合わせた生活全体におけるキャリア教育の検討

職業労働との違いを知ることと同時に家事労働も職業労働とともに生活になくはならない仕事として重要であり、高等学校においては生活設計ということを考え、家庭生活と職業生活を合わせた生活を考えるが、小学校では家庭における生活に焦点が当てられている。職業労働をキャリア教育と合わせてどのように組み込むのかはこれから検討する必要があると考えられる。

以上より、初めて家庭科が始まる小学校の段階で、家事労働を含めた労働概念をどのように説明し、児童に考えさせるのかは重要なことである。また今回は小学校の教科のみを取り上げたが、小学校から中学校への系統性について考えるうえでも、今後は中学校などの教科書についても、小学校で学んだ「家の仕事」を中学校ではどのようにとらえられているのかを検討することが必要である。

[注]

- 1) 小学校教科書は、開隆堂、東京書籍の2社から発行されており、これらの教科書を取り上げた。

[参考文献]

- 天野寛子「育児および家事労働」宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論』, 1978, 有斐閣
- 伊藤セツ「家事労働論・家事労働研究の系譜」, 大森和子他『家事労働』, 1981, 光生館
- 表真美「子どもの家事労働とジェンダー形成・人間形成」, 京都女子大学発達教育学部紀要, 第1巻, 2005, pp.73-79
- 佐藤裕紀子「家庭科における家事労働の扱いと今後の課題—高等学校家庭科の教科書の記述分析から—」, 日本家庭科教育学会誌, 第55巻第1号, 2012, pp.3-12
- 生涯学習審議会「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」, 1999
- 総務庁青少年対策本部「現代青少年の発達課題に関する研究調査—生活体験と非行との関係を中心として」, 1995
- 鳥羽波峰・久保桂子「小学校の家事参加に影響する要因と家事参加を促進する家庭科の授業」, 2013, 日本家庭科教育学会誌, 第55巻第4号, pp.227-245
- 鳥井葉子・吉田友美「男女共同参画社会をめざした小学校家庭科におけるキャリア教育の授業実践」, 鳴門教育大学学校教育研究紀要, 第20巻, 2005, pp.139-145
- 直井道子編『家事の社会学』, 1989, サイエンス社 R・S・コーワン 著, 高橋雄造 訳「お母さんは忙しくなるばかり—家事労働とテクノロジーの社会史」, 2010, 法政大学出版局